



# 会津医療センターから こんにちは！



【30】

研修医  
三宅 真里世

『患者さんと共にある』

**2** 018年（平成30年）4月より会津若松市の会津医療センターで初期研修をさせていただいております。初期研修とは、医学部卒業後2年間の間に様々な診療科を回り、医師として基本的な知識や技術を身に付ける期間です。失敗ばかりの毎日ですが、周りの方々に恵まれ、非常に充実した研修生活を送っています。

ここでは、私が研修生活で感じたことについて、お話をさせていただきたいと思いません。

私には、忘れられない患者さんがいます。その方は、血液内科で研修をしているとき、「悪性リンパ腫」という病気で入院していました。化学療法が行われましたが、呼吸不全を来し、亡くなりました。苦しみで顔を歪める患者さんを見るのは非常に辛かったです。病状について話すのが怖くて、当たり障りのないことしか話せませんでした。しかし、患者さんは、不安を漏らすことは一切ありませんでした。私は、その方が穏やかな顔で感謝の言葉を口にしたときのことを忘れることができません。申し訳なさや悔しさでいっぱいになった瞬間でした。

「Be There」という言葉があります。「患者さんと共にある」という姿勢です。医学は万能ではありません。手の施しようがない患者さんを目の前にして、無力感にさいなまれることも少なくありません。しかし、そのような患者さんに対して医師ができることは、そばにいて寄り添うことではないか、という考え方です。

私は、患者さんに寄り添うことのできる医師になりたいです。その人がその人らしく、病と付き合いながら生きていくためにはどうすれば良いかを、一緒に考えていきたいと思っています。まだまだ修行中の身で、知識も経験も不足していますが、少しでも皆さまのお役に立てるよう、一步ずつ、まい進して参ります。今後とも御指導・御鞭撻の程、何とぞよろしくお願い申し上げます。